

鹿児島の図 鶴丸城



▲御楼門は威容を誇った

今年は島津義弘没後400年を迎えます。それにちなみ、いろいろな事業が計画されているようです。

その義弘の三男で、初代薩摩藩主となった島津家久が、それまで歴代藩主が居城としていた内城を出て、新しく建設したのが鹿児島城(鶴丸城)で、慶長6年(1601)ごろ築城を始め、慶長末(1615)ごろほぼ完成したといわれています。

三国名勝図によると正式な名称は鹿児島城で、かつて上之山氏の居城があったので、上之山城ともいわれていたようす。現在では通称の鶴丸城の方がなじみ深いようですが、そのいわれは背後の城山が、草牟田方面から見ると鶴が舞っているように見えるので鶴丸山といわれていた(名勝図絵)のに由来するとか、城下町が城を中心に鶴が羽を広げた形に形づくられていったのに由来するなど諸説あるようです。

鹿児島城は家久築城後、明治4年(1871)の廃藩置県で島津忠義が去るまで270年あまり島津氏の居城として藩政の中心的役割をはたしました。御楼門は、本丸の大手門(正門)で藩主以外は通ることはできませんでした。

明治6年(1873)の火災で本丸とともに消失、残っていた二の丸(現県立図書館)と私学校(旧廻)も明治10年の西南戦争で消失しました。残された写真や礎石の痕跡などから、高さ18メートル、幅20メートルの堂々たる武家門だったようです。

平成25年(2013)復元計画が提言されて、企業や個人の寄付を募り、平成27年(2015)建設協議会設立、その後も姉妹盟約県・岐阜県から樹齢300年、幹周り4メートルのケヤキが、また義弘ゆかりの湧水町から樹齢100年以上のケヤキ15本が贈呈されました。関係者の尽力で、来年(令和2)には、かつての姿が復元される予定です。

この錦絵は、三代目歌川広重(1842~1894)が『日本誌略図』として発行した版画の一つです。明治初期の武士の姿や洋服姿の人などが混在し、当時の風俗が偲ばれます。

「維新を歩く(1)」
増刊発売中!

当館福田賢治特別顧問の書き下ろした「維新を歩く(1)」が大好評につき、増刊発売中です。

第1章では、なぜ薩摩が明治維新で中心的役割を果たせたのかをひも解き、第2章では、薩摩の英雄たちの歩みをエピソード付きで詳しく紹介しています。

市街地のガイドマップ付きでまち歩きにも適した一冊になっています。

まだ、お求めになつていなの方はこの機会に是非、維新ふるさとショップへ足をお運びください。

■定価：864円(税込)

新商品のご紹介

BARIPA かごしまあるあるハンカチ

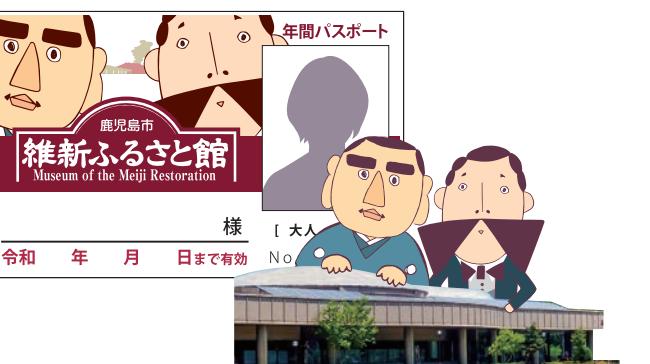
今春よりかごしまのエピソードを隨處にちりばめたハンカチを販売しています。鹿児島県の皆様は思わず納得、県外の皆様は鹿児島のことがよりよくわかるハンカチになっています。是非、当館にお越しの際はお買い求めください。ハンカチを広げて話が弾むこと間違ひなしです。

■定価：648円(税込)



年間パスポートお持ちですか？

当館の年間パスポートは大人600円・小人(小・中学生)300円で、2回分の入館料で年間パスポートが作れます。当館で開講する歴史講座や各種企画展でもお使いいただけます。



INFORMATION

令和元年度はこんなことをします

- 4月 ● 維新ふるさとCafe(～5月)
● 維新[ISHIN] 28号発行

- 10月 ● 維新ふるさと館歴史講座③
● 創作歴史芝居
「西郷どんと愉快な薩摩の偉人たち(仮題)」II
● 維新[ISHIN] 30号発行

- 5月 ● 講座「鹿児島どんなところ? こんなところ!」

- 11月 ● 特別企画展「薩摩と庄内の交流(仮題)」(～12月)
● 維新ふるさとカフェ
● 維新ふるさと館古書店

- 6月 ● 維新ふるさと館歴史講座①

- 12月 ● 維新ふるさと館歴史シンポジウム(演題未定)
● 創作歴史芝居
「西郷どんと愉快な薩摩の偉人たち(仮題)」III

- 7月 ● 維新ふるさと館歴史講座②
● 創作歴史芝居
「西郷どんと愉快な薩摩の偉人たち(仮題)」I
● 維新[ISHIN] 29号発行
● 夏休み親子講座(小・中学生対象)

- 1月 ● 新春寄席
● 維新ふるさと館歴史講座④
● 維新[ISHIN] 31号発行

- 8月 ● 教職員のための歴史講座
● 歴史の質問引き受けます(小・中学生対象)

- 2月 ● 維新ふるさと館歴史講座⑤

- 9月 ● 西郷隆盛をしのぶ維新ふるさと館書道展
● 維新を歩く(庄内編)～鶴岡を訪ねる

- 3月 ● 維新ふるさと館歴史講座⑥

*イベント等は開催時期、内容等が変更になる場合があります。

温故地新

ふる故きを温ぬ、地元を新たに。

「よかにせ・よかおごじょ」ランキング

鹿児島にゆかりのある偉人35人の中からお気に入りの人物に投票することが出来るこの展示。タッチパネルから、だれでも投票することができます。ランキングはずっと変わらず1位西郷隆盛、2位大久保利通です。明治維新を成し遂げた2人の人気は根強いものですね。あなたにとってのよかにせ・よこじょは誰ですか?ぜひ、維新ふるさと館で投票してくださいね。

NHKと共に朗読&歴史トークライブ公開収録

「明治維新150周年」の節目となった去年、大河ドラマ「西郷どん」の放送で鹿児島は大いに盛り上がりました。平成30年度の締めくくりとして、NHK鹿児島放送局と共に3月9日、朗読&歴史トークライブ「文学中の西郷どん」を開催しました。

海音寺潮五郎や司馬遼太郎など直木賞を受賞した作家たちの作品をNHK鹿児島放送局アナウンサー・女性キャラ

スターの皆さんが朗読。ゲストのかごしま近代文学館学芸員の吉村弥依子さんと当館福田賢治特別顧問が、「文学」と「歴史」双方の観点から会場を西郷隆盛の世界へと誘いました。トークを熱心にメモされたり、大きくなづかれたり、100名を超えるお客様の熱気に包まれた2時間30分でした。

これからも維新ふるさと館は、各種関係機関・団体と連携して、鹿児島の歴史を「わかりやすく、楽しく」紹介していきたいと思います。



▲この模様は後日放送された



庄内藩校致道館(鹿児島市馬場町)

維新を歩く
庄内編

酒井家第9代酒井忠徳は、当時退廃した士風を刷新し、藩政の振興を図るために異学である徂徠学を採用し、文化2年(1805)に藩校致道館を開校した。創建当時の面積の半分にあたる敷地には、孔子を祀る聖廟があるなど、藩校遺構が残っている。これは東北地方では唯一であり、国の史跡指定をうけ、現在公開している。

忠徳は、教育方針を職掌別に被仰出書で明示した。その特徴は、天性・個性を尊重、自發学習を進め、会業(ゼミナール)を重視した。教師は教えすぎにならないよう、どう考え、どういうところがわからないという尋ね方でないと答えなかった。

有為な人材を生み出した藩校は戊辰戦争時も休校することなかったが、終結時は本営にあてられた。明治元年9月26日夕刻黒田清隆参謀が、藩校致道館に入り、そこで礼服姿の庄内藩主第13代酒井忠篤が単身で謝罪降伏をした。藩主は礼に則り負将として辱めを受けることなく、藩士は所持している武器の一切を角櫓まで差しだ

すことを指示されただけで、自宅で謹慎するという寛大な処置に庄内の将兵も頭を下げざるを得なかった。あまりにも寛大ではないかという声に「敵となり味方となるも一に運命によるもの、庄内藩が帰順した以上兄弟も同然。勝者であるとして尊大に構えて相手を敵視することはできない。再び反逆あればひきかえし討伐すればいい」と西郷翁は答えたという。後日庄内藩督中老が黒田に会って感謝を述べたとき、「みな、西郷先生の指示」と聞いて真卒な黒田の人柄と、西郷の人望の厚さ、計り知れない大きさと深さを改めて思った。

藩校致道館は明治6年6月廃校となった。江戸から明治にかけて真摯に学んだ若き藩士たちや歴史的シーンを彷彿とさせる藩校致道館は、凛として静かに佇んでいます。



文／酒井 忠久氏
旧庄内藩酒井家18代当主
公益財團法人致道博物館代表理事・館長
松ヶ岡開墾場総長



温故維新マップ

ふる故きをたずねて維新を知る

総集編

“明治維新150周年”という節目は、鹿児島に大きくスポットが当たった年でもありました。“歴史回天の地”鹿児島の新たな魅力を再発見した方も多いかと思います。明治維新的舞台となったあの地、この地を偉人たちに思いを馳せながら、もう一度歩いてみてはいかがでしょうか。

11 西郷南洲顕彰館・南洲墓地
西郷隆盛没後100年を記念して建設。西郷の生涯や思想、業績のほか、西南戦争に関する資料などを展示・紹介しています。隣接の南洲墓地には、西南戦争で戦死した2千人以上の人々が埋葬。鹿児島県指定史跡にも登録されています。

歴史のまちを、さるいてみよう!

1 維新ふるさと館
甲突川河畔の下加治屋町にあった西郷隆盛の生家跡地。明治時代に公園化され今に受け継がれています。

2 西郷隆盛誕生地
※維新ふるさと館近く
イトさんと結ばれた西郷隆盛29歳頃の家。祖父、父母を相次いで亡くし、下加治屋町から移り住んでいます。

3 西郷南洲翁宅地跡
※共研公園
西郷南洲翁の29歳頃の家。祖父、父母を相次いで亡くし、下加治屋町から移り住んでいます。

4 若き薩摩の群像
イギリスに派遣された薩摩藩留学生、薩摩藩の青年藩士17人の銅像。

5 西郷武家屋敷跡
西郷隆盛の祖先とその一族の墓が、23基も並んでいます。隆盛と愛加那の子、菊次郎もここに眠っています。

6 西郷家の墓
西郷率いる薩軍最後の本営跡地。戦後、市の職員が正午を知らせる空砲を鳴らしていたことから、「ドン広場」と呼ばれるようになりました。

7 城山
桜島や鹿児島市街地を一望できるのが魅力の城山展望台。大正天皇が皇太子の時代、市街地を御観覧される際に設置されたのがはじまりとされます。

8 西南戦争薩軍本営跡(ドン広場)
西郷率いる薩軍最後の本営跡地。戦後、市の職員が正午を知らせる空砲を鳴らしていたことから、「ドン広場」と呼ばれるようになりました。

9 西郷洞窟
西郷が最後の5日間を過ごしたといわれる洞窟。新政府軍に追い詰められた薩軍がこの洞窟に立てこもりました。西郷さんが自決したのは、また別の場所です。

10 西郷隆盛終焉の地
明治10年9月24日未明、城山を包囲した政府軍が一斉に砲撃を開始。西郷隆盛は太ももに銃弾を受け、この場所で別府晋介の介錯によって最期を遂げたといわれています。

11 西郷南洲顕彰館・南洲墓地
西郷隆盛没後100年を記念して建設。西郷の生涯や思想、業績のほか、西南戦争に関する資料などを展示・紹介しています。隣接の南洲墓地には、西南戦争で戦死した2千人以上の人々が埋葬。鹿児島県指定史跡にも登録されています。